

# 校内研修計画

甲州市立塩山南小学校

## 1 学校課題

国語科においては、「読むこと」の領域や漢字の読み書きに課題がある。特に、長文読解や記述式の問題に対して課題が大きいことが挙げられる。内容だけでなく何が問われているかを把握し、文中から探したり抜き出したりする力が不十分であると考えられる。同時に、自分の考えや意図を持ち、それと比較しながら聞く力の育成も必要である。社会科においては、資料の読み取りとその活用に課題が認められる。資料やグラフで分かったことをもとに、自分の考えや予想できることなどを見出すことができるよう、さらに授業改善が必要である。

生活実態については、就寝時刻や起床時刻が遅いこと、メディアへの接触時間が長いこと、さらには家庭学習が定着していないことに課題がある。これまでの2年間、家庭と連携し、「早起き早寝」や「アウトメディア」に対する取組を継続して行い、成果が上がっている。

また、対人関係や集団行動において、ルールを定着させ相手と上手にコミュニケーションをとることができるよう、エンカウンターやソーシャルスキルなど、関わり合いを大切にしたい取組を行うことにより、次第に互いを認め合い協力し合う姿が見られるようになってきた。また、Q-U検査の結果を学年で分析し、アタックシートをもとにその後の活動に生かすことで、個々の持っている力を発揮できるようになるなど、「学び合う学級集団」が育ってきている。

しかし、学力面、健康面、ものの見方や考え方、家庭での生活習慣にはかなりの個人差がある。これは一斉指導における集中力の持続や姿勢、学習規律の定着において大きな差につながっており、授業や生活ルールの確立にはさらに継続した取組が必要である。また、好奇心旺盛で学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習指導及び生徒指導における様々な問題も多くなっている。教科指導においては個に応じた指導（個性化、個別化）を心がけ、さらに継続して組織的な取組を進めていく必要がある。

## 2 研究主題

「確かな学力の定着を目指した授業改善の工夫」（3年次）

～ 学ぶ楽しさや分かる喜びを味わえる効果的なRPDCAサイクルを通して ～

## 3 主題設定の理由

今、これからの「知識基盤社会」を生き抜く「確かな学力」を、すべての児童生徒に確実に身に付けさせることが求められている。現在の教育課程の中で、学習指導要領で示された学習内容をすべて身に付けさせるには、学級集団の状態に応じた授業展開を工夫し、「どの子にもわかる授業」を仕組んでいかなければならない。本校は平成26年度から「授業改善プラン実践事業」の研究指定を受け、県や市の授業改善プランの活用・実践を通して、本校独自の授業改善プランを作成し、児童の確かな学力の定着を図ることが研究の大きな柱となっている。さらに、作成した「授業改善プラン」による授業実践を公開するなどして、研究成果の普及を進め、近隣小中学校の授業改善を促し児童生徒の確かな学力の定着と向上を図っていくことも求められている。

そこでこれまで、授業の導入では「見通し」を持たせるため、学習のめあてをいつでも意識できるようにし、終末では何が分かったのか、何が分からなかったのか、またそれはなぜかなど、授業の構造化を意識した指導過程を仕組んだり、学習の「振り返り」を確実にさせたりしてきた。さらに1時間の授業だけでなく、児童一人ひとりが単元全体を見通すことができる指導過程を工夫し、身に付けさせたい力に迫ることができるよう改善プランの作成を進めてきた。

今年度はそれに加え、アクティブラーニングを意識したワークショップ型の授業を場面に応じて取り入れていきたいと考える。発問中心の授業から、活動を授業の中心に位置づけられるよう、自らの考えやアイデアを発話、文章、図式化等の方法で表現できるようにするため、書く・話す・発表するなどの活動を大切に授業を設計していく。その体験を学びに結びつけるために振り返りを行いたい。その身に付けた知識を活用して、問題を解決することが確かな学力につながると考える。

今までの研究の過程で、「どの子にもわかる授業」を効果的に進めるためには、基盤として集団づくり（学習規律の定着・認め合う雰囲気づくり）が必要であることが確認され、学習規律の共通確認やQ-U検査を活用した集団づくりに取り組んできた。今年度も学習規律をさらに徹底していく中で、Q-U検査を活用し、引き続きK13法でクラスの実態をブロックごとに分析していきたい。そして、学級集団や個々の児童の実態を把握しながら、課題やその対応策について研究・実践を行い、授業展開の工夫や集中して学習に取り組める学級集団づくりを進めていきたいと考える。

上記のことから、本研究主題を設定した。

#### 4 研究方法及び具体的な取り組み内容

- (1) 児童の教科及び生活習慣や学習習慣の状況把握と改善すべき課題の整理
- (2) チャレンジタイムの取組（8：20～8：35）の15分間をしっかりと確保する。
- (3) 家庭での学習のあり方・保護者との連携
- (4) 「見通し」と「振り返り」, 「言語活動の充実」を意識した授業の構造化と実践
- (5) 身に付けさせたい力と指導内容を明確にした授業づくり
- (6) 学級の実態に応じた指導過程の工夫

#### 校内研修計画

研究主任 小椋 規雄

時期 (月)	研究内容, 成果の公開, 研究成果の検証等の予定
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題, 研究内容, 研究組織, 研究計画の検討</li> <li>・昨年度の学力調査の結果の分析, 課題の把握</li> <li>・学力調査, 学習状況調査の実施 (全国学力学習状況調査・県学力把握調査・NRT学力検査)</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NRT学力検査の結果考察及び改善プランの付加修正</li> <li>・県学力調査採点, 結果の分析</li> <li>・学校課題の把握</li> <li>・生活習慣実態把握に向けてアンケートの調査, 今年度の方向性の確認</li> <li>・Q-U検査1回目の分析 (K-13法)</li> <li>・学習会 アクティブラーニングについて</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U検査1回目の分析 (K-13法)</li> <li>・県学力把握調査の結果考察及び改善プランの付加修正</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践・授業改善</li> <li>・一人一実践 (授業公開) に向けた教材研究《各個人・ブロック・部会》</li> <li>・Q-U検査の分析をもとにした学級作りについての学習会 【授業実践, 学習会 (都留文科大学 品田笑子先生)】</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「全国学力学習状況調査」の結果からの考察・本校の課題検討</li> <li>・授業改善プラン見直し, 修正</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善プラン見直し, 修正</li> <li>・学力向上フォーラムへ向けて</li> <li>・一人一実践 (授業公開) に向けた指導案作成《各個人・ブロック・部会》</li> <li>・学習会 主に, アクティブラーニングについて 対話力向上に向けた取組について</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一実践 (授業公開) に向けた指導案作成《各個人・ブロック・部会》</li> <li>・学力向上フォーラム2016</li> <li>・学習会 主に, アクティブラーニングについて</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討</li> <li>・授業改善プランの見直し</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開へ向けて</li> <li>・授業公開研究会 (検証授業・全体会)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CRT学力検査</li> <li>・研究のまとめ (成果・課題)</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ (今年度の検証・CRT分析)</li> <li>・成果と課題の把握, 来年度の方向性等</li> </ul>